て、一度も六十仙を超えた事がありません。日本食や支那料理を取つても一食一弗以内の事です。「ホテル」の「ダイニング」は經濟上は別にしても、とてもチョイ／＼行けたものではありません。それで宿代に食事や「チップ」なぎを入れ一日八弗みます。さうするに五十日で四百弗、總計して八百五十弗、これに自動車代がいりませう、しかし商賣をしようとする人なら、自動車を使ふ機會も、そんなに無い筈です。見物なら「サイトシーング」で結構、紐育邊なら、交通至便で、自動車は却つて間のろつこい位であります。假りに是を百弗見ても九百五十弗です。これでも寢臺と宿泊と重複してゐる處もあります。此を一弗三圓五十錢で換算してみれば、先づ三千三百圓です。なんだ五十日位ぢややりきれない／＼仰つしやるかもしれないが、それは商賣の爲に長くなるので、商賣の爲ならいくらかゝつてもいゝと思ひますから……あまり、高くかゝる／＼宣傳されるよりは、失禮ながら、安くて行けると言つた方が、皆さんの奮發心をそゝると思はれますので……。

(終)

摘 録

「ホルモン」療法に於ける周期現象の
解剖學上の監視

Wolfram Reifferscheid(Wurzburg)(Zbl. Gynäk.

1937 Nr. 13.)

女子性器の機能障礙に對して「ホルモン」療法を行うて、その學術上の効果を批判して觀察することは大切であるが、今日まではまだ臨牀症候の觀察のみに基いて居る。然し用ゐられた「ホルモン」の作用や、治療前後の病變に就て精細な基礎の上に立つて實行することが必要である。

その精密な研究には形態學から見るこゝが唯一の方法であるが、「ホルモン」療法ではそれに基くものが少いこゝは甚遺憾である。

その實行には子宮内膜の搔爬を要するが、定型の搔爬手術には頸管の擴張を要し、その爲には麻酔を要し、また手術後の安靜をも要する。従て多くは入院するを安全なりとする爲に時日と費用の點からも不利である。殊に短い間隔で繰返して行はねばならぬことを常とする。そこで簡単に診査搔爬を通院患者に對して行ひ得

る工夫をした。

これに用ゐる器械は圖の如き四乃至五耗の徑を有する管であつて、先端から約十五耗のところに軽い彎曲があつて、子宮腔の前屈して居る正常状態に適合し、その先端は鈍い圓錐形になつて狭い子宮口を通過し易い。この先端の下に長方形の孔があつて搔き取つた組織を受け容れるやうになつて居り、その孔の前端は刃を具へて組織を搔き去るやうになつて居る。この消息子狀の器械が挿入せられた度合を知る爲に先端から七耗を距てたところに浅い線が刻んである。また器械の前面を知らせる爲に把柄の前面に三本の僅に窪んだ横走の線がある。

この器械の使用法は腔鏡を用ゐて子宮腔部に鉤を掛けて子宮消息子を使用する如くに子宮腔内に徐々に挿入して、先端が子宮底に達したときに把柄を少し下げて子宮壁を擦過して引き出す。それで子宮前壁の組織が長方形の孔の中に受容せられる。それを取り出して適法に處置して検査する。

この方法を多數の外來患者に用ゐたが、少時間を経て消散する程度の苦痛を認めることがある位で、著しい苦痛は認めなかつた。出血は殆どなかつたが、若しあつても甚少量であつた。併發した

り續發する障礙は少しも認めなかつた。周期も妨のあつたことはない。若しこの器械を用ゐて何か障礙を起したならば、主として不適當な應用によるものである。悪性新生物の疑のある場合には全然用ゐてはならぬが、その他の場合にはただ診査の爲に組織片を取出すだけの目的には應用し得られる。
(木下抄)

腰掛式患者用運搬用擔架

Birkenfeld 述(Chirurg. Heft 8, S. 320, 1937.)

次に述ぶる擔架は丈夫な帆布製坐臺 e ミニケの蹄係狀をなす肩掛帶 a b よりなり、更に肩掛帶の後部には環狀帶 c が裝著されて居り、此れは「ビチャウ」により患者の體格に應じて背部を擔架より墜落しない様に緊縛し得る様になつて居る、又兩肩掛帶 a b は「ビチャウ」 d により運搬者の身長に應じその長さを調節し得る様になつて居る。此の擔架は運搬者は兩手を放したるまゝでも運搬出来るのが利點である。

製造所。Heinrich Hafner, München 19, Ysenburgstr. 12.

(野崎抄)